



ホームページが新しくなりました。QR
コードを読み取り御覧ください。スマイル
附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第4号 令和4年7月15日(金) 校長 古野 祐一

嬉しい挨拶で締めくくり！

4月6日(木)の始業式、子供たちに話したのは「挨拶」のことでした。相手が幸せな気持ちになる挨拶で、附属小をパワーアップしようと投げ掛けました。

あれから3ヶ月、これまで以上に元気な声が、あちらこちらで響き渡っています。これは、次のような取組の賜物です。

1年生は、「挨拶する、先にする、名前を付ける」という三つのレベルを設けて取り組んでいました。2年生は「いつでも、どこでも、誰にでも」「やりすぎ挨拶」を合言葉に取り組んできました。附属小では、低学年から、相手に感心を寄せ、その人を大切にする心を挨拶によって磨いています。

6月の下旬に嬉しいことがありました。新聞社の方が取材で来校された時のことです。玄関に入ると、通りかかった中学年児童の清々しい挨拶。1年生教室に行くと一生懸命掃除をしながら明るい挨拶。2年生に行くと一人一人が「校長先生、おはようございます」。新聞社の方にも笑顔で挨拶。「どの子も顔を見て挨拶するのが凄いですね」と言って驚かされていました。新聞社の方も幸せな気持ちで附属小を後にされたことと思います。

最近、よく子どもたちから「校長先生はどんなときにスマイルになりますか」と、質問されることがあります。やはり「北斗の子が褒められた時」。これに勝るスマイルはないなあ、と、締めくくりの時に改めて感じています。

バックアップをお願いします！

前号の学校便りでお伝えした6年生の北斗の丘プロジェクトの続報です。第1回プレゼン会が、6月30日(木)3校時に開かれました。遊具設置グループ、植物グループ、休憩椅子設置グループなど様々なアイデアが説明されました。下級生が求めていることや、なぜこれが必要なのかを全校アンケートによって明らかにするなど、事務室の満本係長も感心しきりでした。藤本学部長からは、「それぞれの計画で繋がっている部分を考えると無駄が省ける」というアドバイスを受け、川口PTA会長はじめPTA本部の皆さんからも質問や助言を受けたことで、より実現に向けた改善作業に取り組んでいます。

昭和の時代に、当時のPTAの御協力で出来上がった北斗の丘が、子どもたちの発案を受け新しく蘇ろうとしています。子供たちをバックアップしようと、今年度も北斗の丘周辺の草刈りを10月中旬の2日間、本部・保健体育部で計画していただいていると聞いています。その他にも様々に御相談することがあると思いますので御協力をよろしくお願いいたします。



挨拶名人を目指す
1年生の廊下掲示。



集団下校で元気に挨拶する子どもたち。



学部長・PTA本部・係長に真剣プレゼン。



堂々とプレゼンする
6年生。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

一人一台パソコンを使っている学びが、日々展開されています。

2年生生活科の授業の様子です。学校にいる生き物を見付けクロームブックで撮影します。教室に戻り、classroomに入り、見付けた生き物の写真を教師が準備した学校の地図に貼り付けます。それをもとに、どこにどんな生き物がいるか気付きを交流し合います。子ども自ら撮ったものをすぐに共有することで、よりリアルな学びが展開されます。

5年生体夢の授業の様子です。被爆遺構を巡り、平和について考えました。オンラインで広島大学附属小学校の子どもとつながり、発表、意見交換を行います。平和への考え方に共感を得たり、逆に質問にうまく答えることができずに新たな課題を見出したりと、同じ被爆地で育つ同世代との交流を通して平和への意識が更に高まります。

学びを支える一人一台パソコン

このように、子どもが学びとる授業で、一人一台のパソコンは必要なものです。

一方で、「よくない使い方」が増える恐れもあります。子ども同士でのよくないコメントの書き込み、有害サイトの閲覧、使用時間の問題……。このような問題が起こった時に注意したいことは、一律に「禁止」しても本質的な解決につながらないということです。パソコンというツールに原因があるのではなく、よくない使い方が生まれる背景や環境そのものにあります。

夏休みには、パソコンを持ち帰ります。調べ学習、作品作り、自由研究発表と有効に活用していただきたいです。学校でも「夏休みchromebookの使い方」を基に指導をしております。ご家庭でも使い方を話し合わせ、家庭のルールを明確にしてください。

教頭 橋田 晶拓

北斗の学び

主体的な夏休みに

北斗の子は、授業の中で、自ら課題を見だし、目当てを設定します。「解決したい」という思いがあるからこそ、これまでに身に付けた知識や、資料、インターネット等を駆使しながら、解決に取り組んでいきます。教師に言われるがまま与えられた課題を受動的にこなすだけでは、子どもは主体的になれません。だからこそ、私たちは、授業の中で、子どもが自分たちで課題を見だし、目当てを設定できるように、教材を準備したり、問うたりしています。そうすることで、子どもが自分で選択や決定ができるようにしているのです。

これから夏休みに入ります。お子様が主体的に夏休みを過ごすためにも、生活リズムや日課、作品作りなど、選択や決定を任せてみてはいかがでしょうか。お子様によっては「2つのうち、どちらか好きな方を選んでいいよ」とわずかも選択肢を作ってみるとよいかもかもしれません。

北斗の子が、これまでの学びを生かし、主体的に過ごす夏休みになることを願っています。

主幹教諭 吉田 公悦

潜入！附属小リアルスコープ

子どもにとってどうか

先日、テレビを見ていたときの話です。5歳の“チコちゃん”という女の子に、「ポーッと生きてんじゃねえよ！」と叱られてしまいました。その言葉を聞いた瞬間、私は自分の姿にドキッとしました。学校という生活時間の中で、「いつも通り」に甘えてしまっていないか、「無難」に過ごしていないかと考えたとき、更に豊かな学校を目指すことができるのではないかという思いに駆られたのです。では、そのために大切なことは何でしょうか。それは、「子ども視点」だと考えています。例えば、力試しの返却・解説を行う際、まず初めに一度みんなで協力して問題を解く時間を設けてみました。単に答えや解法を確認するのみの時間に比べ、もう一度解き直しながら互いに考えを語り合う子どもの姿は、とても意欲に満ちあふれていました。子どもの視点から、過ごす時間がより活性化するためにはどうすればよいか、などのようにアイデアを巡らせ、これからも充実した北斗の学校を築いていきたいと思っています。

教務主任 才木 崇史